

「学生の授業評価」についての教員アンケート
集計結果報告（2005年度 前期分）

2006年 5月

実践女子短期大学・自己評価委員会

はじめに

短期大学部長 岡田 正

この『「学生の授業評価」についての教員アンケート集計結果報告(2005年度前期分)』は本学において前期、後期の最終授業に全教科で実施している学生による授業評価の結果を各教員がどのように受け止めているかアンケート形式で調査した結果を実践女子短期大学・自己評価委員会が集計したものである。ここからは学生の授業評価を教育内容の充実に役立てようとする教員の真摯な思いをくみ取ることができる。

内容の詳細は本文に委ねるが、感じたことを一つ述べれば、自己評価委員会委員長の感想にも記されているように、現状における本学の教員の最大の悩みは、学生が望む教育内容と、教員が学生に対して卒業までに身につけてほしいと考えている教育内容とが乖離した時に、学生の希望を優先すべきか否かということに集約される。この問題は今後FD活動等において充分論議を交わすべきことであり、ここでは授業内容のレベルについては学生の評価が低い一方で「授業の内容」についての質問4「この授業を受講して新しい知識や技術を得ることができましたか」に対しては、肯定的回答からも否定的回答からも、学生の評価が高いことを考慮したいと言うにとどめる。

われわれ教員が学生の要望に応え、各学生にとって最善の成果が得られる教育および指導を行うにあたって、学生の声である授業評価は重要な情報である。そして各教員が他の教員の考えを知ることは、これまた貴重な参考資料となる。当該委員には多忙の中にさらに負担をかけることになるが、今後も充実、改善を図っていきたい。

2005 年度 前期分 教員アンケート集計結果について

自己評価委員会委員長 小 林 修

2005 年度前期分の「学生による授業評価」結果に関する「教員アンケート報告書」をお届け致します。12 月に前年度後期分の報告書を発行し、それと併行して集計作業に取り組んで来ましたが、様々な事情から発行が遅延したことを先ずお詫び致します。発行は遅れましたが、今回は前回に比して回答数も合計 85 通と大幅に増加し、結果的に前号よりも充実した報告書になったのではないかと考えています。編集上新たに考慮したことは、自由記述部分も従来のように全てをそのまま収録するのではなく、同様なものをグルーピングして提示することによって、ある程度傾向を明確にするように工夫しました。また、副委員長を中心に全体的な分析をまとめ、委員会としての分析結果を一つにまとめて提示することにしました。これを一つの参考にして、この報告書を手にとって下さる教員一人一人が改めてデータと自由記述等を見直し、問題点や課題を認識することによって、ご自分の授業の参考に供して下さることを願っています。

昨年度は全学園組織の自己点検評価委員会が発足し、短大自己評価委員会も新組織の中に位置付けられるとともに、18 年度には認証機関評価（第三者評価）を受けることが決定したことから、新委員会もそれに向けた活動を本格化し、頻繁な委員会活動を通して新しい課題にも取り組み、非常に多忙な一年間を過ごしました。またFD推進委員会も発足し、本報告書もFD推進委員会によってFD活動の重要な参考資料として活用される道筋も整えられました。そして学生による授業評価アンケートの集計結果とともに、この「教員アンケート報告書」もホームページ上に公開されることとなり、学生にも教員の考えや意見を伝えられる機会が得られることになりました。これにより「学生による授業評価」と連動した「教員アンケート」本来の意図と役割もある程度実現の方向性が確立されたものと思われます。なお、18 年度には一定のサイクルを終えた「授業評価シート」の見直しとともに「教員アンケート」項目の見直し改善に取り組む予定ですので、いっそうの御協力をお願い致します。

学生の授業評価に関する教員アンケートまとめ (2005年度 前期分)

今回の教員アンケート結果の数値と自由記述を総合して浮かび上がってくる問題点と課題は以下のようにまとめることができる。

1. 授業の進め方について

1) 学生の理解度に合わせた授業をどう進めるか

教員は明確な授業計画のもとに授業を進行し、良く準備された工夫のある授業を、明瞭で聞き取りやすい話し方で進めている。学生の質問に対する対応も適切である、というのが大方の学生の評価であると言ってよいだろう。これらの項目では、「学生の評価が最も高かった」とする教員が「もっとも低かった」とする教員の2倍以上あり、これらについては学生の評価が得られていると言える。ところが「学生の理解度に合わせた授業」という項目については、逆に「最も低かった」とする教員が圧倒的に多い。学生は「レベルに合ったわかりやすい授業」を強く求めているのだが、それは果たされず、授業が難しいと感じている。「熱心で意欲的な教員」に対する「レベルの高すぎる、分からない授業」という対照は、前回の調査でも明瞭に現れていた。教員と学生のこのギャップこそ解決すべき大きな問題である。

2) 学生のレベルの差

1項の問題を掘り下げると、学生間に理解度や意欲(集中力)の差があり、それが年々、拡大傾向にあるという状況が浮かび上がる。学生の理解度(質)が下がってきているという嘆きは記述意見にも多く見られる。これに対処するには、学生の理解度・習熟度に合わせたクラス編成ができればよいのだが、語学など一部の科目以外は、現実には難しい。

3) 授業内容の量

レベルと同時に量の問題がある。学生の多くは「量が多すぎる」と感じており、教員の中にも内容を精選して予習・復習の時間を取るべきだという意見がある。他方、減らすことは不可能で、もし行うなら2つの授業に分けるしかないとする意見もある。これらはカリキュラムと教育内容の見直しという課題を浮かび上がらせる。

4) 授業の工夫

学生の「質」の低下が否めない中で、授業に対するいっそうの工夫と教授法の開発が求められている。学生の評価を見ると「板書、ビデオなどの視聴覚教材、配付資料」については「評価が最も高い」と「最も低い」とが拮抗している。良い教員も良くない教員もいるということで、全体としてはまだまだ改善の余地があるということであろう。

記述意見にも授業改善の必要性はいろいろな角度から書かれている。教員の多くは授業を工夫改善すべきことを痛感して、シラバスの書き方の工夫、質問への対応の仕方、板書

の工夫、視聴覚教材の開発等についての取り組みや課題を記している。その中には、座学中心の進め方を抜本的に見直し、参加型授業を推進する必要があると感じている教員もいる。この問題に的を絞ったFD活動の活性化が短大の取り組むべき大きな課題と言える。

2. 学生評価のあり方について

学生評価を行う意義と効果については、大多数の教員が肯定的な答えをしているが（アンケート集計）、自由記述にはかなりの疑問点が指摘されている。特に一部の学生が「よく考えもせず」記入しており、また評価をする資格のない学生がいる、という指摘もある。

この問題を解決するには調査方法やアンケートの設問形式を見直す必要がある。これについては記述意見にはさまざまな具体的な提案が見られる。不適切と思われる設問は除き、授業の形態に配慮した適切な設問を用意すること、また、調査の仕方についても時期や記入のさせ方（学生の記名を求めるなど）等について改善提案が寄せられている。

結果の集計についても、きめ細かい分類項目の設定や時系列比較のできる集計を求める要望があった。

06年度にはこれらの意見を踏まえて、次の3つの課題に取り組む必要がある。

1) 学生の授業評価シートの見直し

より現実に即した、学生にとっても記入しやすいシートを設計しなくてはならない。

2) 集計項目の再検討

結果を客観的にとらえ、授業改善に役立つような集計項目と集計の仕方、結果の発表の仕方を考える必要がある。

3) 教員アンケートの見直し

教員アンケートもこれまでずっと同じ形式で行ってきたので、角度を変えて教員の意向や改善提案がわかりやすく書き込めるような方式に改めたい。

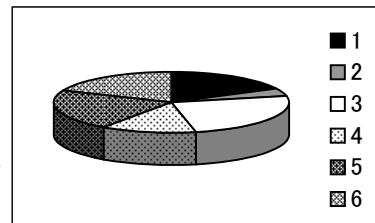
「学生による授業評価」についての教員アンケート集計結果

回答教員数85名 (注・同率による複数回答があるため、合計人数とは必ずしも一致しません。)

1. 「教員の授業の進め方について」の中で学生の評価が最も高かった項目は何ですか。

項目番号	1	2	3	4	5	6	計
人数(人)	16	4	23	12	20	17	92
比率(%)	17	4	25	13	22	18	100

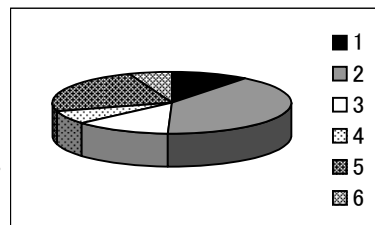
1. 講義概要などの授業計画にそって、授業は進められましたか。
2. 学生の理解度にあわせて、授業は進められましたか。
3. 教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか。
4. 教員の授業の準備や工夫はよくされていましたか。
5. 板書、ビデオなどの視聴覚教材、配付資料などは授業の理解を助けてましたか。
6. 質問に対する教員の対応は適切でしたか。



2. 「教員の授業の進め方について」の中で最も低かった項目は何ですか。

項目番号	1	2	3	4	5	6	計
人数(人)	9	34	11	6	20	5	85
比率(%)	11	40	13	7	24	6	100

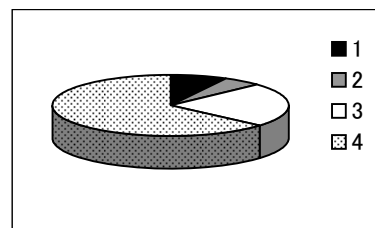
1. 講義概要などの授業計画にそって、授業は進められましたか。
2. 学生の理解度にあわせて、授業は進められましたか。
3. 教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか。
4. 教員の授業の準備や工夫はよくされていましたか。
5. 板書、ビデオなどの視聴覚教材、配付資料などは授業の理解を助けてましたか。
6. 質問に対する教員の対応は適切でしたか。



3. 「授業の内容について」の中で、学生の評価が最も高かった項目は何ですか。

項目番号	1	2	3	4	計
人数(人)	7	5	21	58	91
比率(%)	8	5	23	64	100

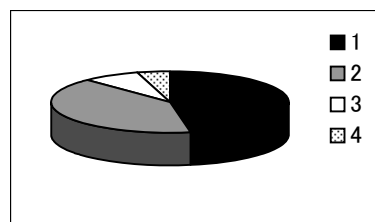
1. 授業内容のレベルはあなたにとって適切でしたか。
2. 授業内容の量はあなたにとって適切でしたか。
3. この授業を受講して、あなたの興味や関心はふえましたか。
4. この授業を受講して、新しい知識あるいは技術を得ることができましたか。



4. 「授業の内容について」の中で、学生の評価が最も低かった項目は何ですか。

項目番号	1	2	3	4	計
人数(人)	42	36	7	4	89
比率(%)	47	40	8	4	100

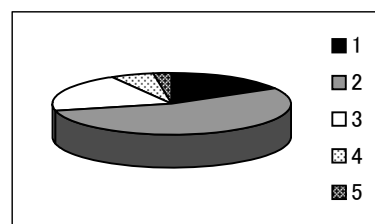
1. 授業内容のレベルはあなたにとって適切でしたか。
2. 授業内容の量はあなたにとって適切でしたか。
3. この授業を受講して、あなたの興味や関心はふえましたか。
4. この授業を受講して、新しい知識あるいは技術を得ることができましたか。



7. 今年で2年目となりました「授業に関するアンケート」は、あなたの授業運営にとって意義あるものでしたか。

項目番号	1	2	3	4	5	計
人数(人)	14	46	17	5	2	84
比率(%)	17	55	20	6	2	100

1. とても意義があった。
2. まあまあ意義があった。
3. どちらとも言えない。
4. あまり意義がなかった。
5. まったく意義がなかった。



教員アンケート自由意見のまとめ (2005年度 前期分)

*自由記述の意見を整理し、同種のものとはまとめ、問題点別に整理した。

●学生の理解度と授業の進め方

- ・「学生の理解度にあわせて授業が進められたか」の評点は両極にわたっている。理解度に留意するものの、理解してもらいたいことを伝え、分からせることが重要で、理解しようとしないうちは無視するしかない。
- ・毎回、問題になるところです。しかし、現在の授業水準は決して高いところに設定していません。また進行速度も、必要事項を満たす意味で、ぎりぎりのところ。もし、逆の可能性、もう少し水準を上げ、速度も早くということであれば、対応はむしろ容易です。
- ・基礎知識を正確に把握してもらおう、レベルを下げて懇切丁寧に指導すべく努めたからよい評価を得られたと思う。
- ・人数が少ない授業であり、私自身学生さんの反応を見ながら分かり易く話すよう心がけておりましたので、(よい評価は)その結果であるように思います。
- ・出席をとるので出席率は良いのですが、意欲的でない学生も出席するので後方に座っていて声が小さい、板書が分からないといっているような気がします。
- ・変遷を話していたため、毎回出席をしていないと理解しにくかったらと思う。
- ・講義外での自宅実習が必要であるので、進度の差は学生によりどうしても出てくる。中間採点などをして、途中引き上げる考慮はしているが難しい。
- ・実践経験からの教育のため、業界用語を出来る限り咀嚼して話したが、それでも理解出来ぬ学生がいることを痛感した。
- ・(理解が難しいという評価について)反省しておりますが、分かり易かった、楽しい授業だったという学生もいますので分からない学生は前に座って欲しいです。
- ・同じ授業でも本人が一生懸命聞こうとする学生は、分かり易かった、楽しい授業だった、ためになったということを書くのですが、意欲のない学生は不満を書くことが多いような気がします。実習ものは50人を超すと無理があるような気がしてきました。

●学生のレベルの差

- ・学力差の大きな学生の全てに十分理解してもらおうことの難しさを知りました。難しい内容をやさしく伝える工夫が欠けていたと思います。
- ・学生が評価する能力があるのか疑問に思う。年々、学生の集中力、学習意欲が低下してきているように思う。
- ・クラスにより基礎的な力が異なるのも事実で、予想以上に学力の低い学生には驚くこともある。また、集中力に欠ける学生をどのように興味を持たせるかが課題と思った。
- ・学生のレベルがまったく不明な状況で、授業を進めざるを得なかったこと。また、レベルがまちまちの多人数の学生を同クラスで指導しなければならなかったこと。この2つが(理解度についての悪い評価の)原因だと思います。
- ・教科書のレベルを低くして、英語で読む内容を分かりやすくする必要がある。
- ・全くの初級者とかなりの上級者を一緒に教えるのでそれぞれのレベルに合わせにくい。
- ・難しいという評価が、例年3分の1くらいの学生から聞かれる。この学生たちは予習復

習をほとんどしようとせず、別の指導が必要。レベルを下げるつもりはない。

- ・学生のレベルが低く、学生のレベルに合わせるのに大変苦勞した。
- ・中学生や高校生に教えるレベルに下げることなく短大の質を維持することについて、毎年絶え間ない工夫が要求されることを認識したいと思います。
- ・制作にかかる時間的な量は、学生にとってはかなりのものらしく、授業計画の折には、レベルを下げるかいつも悩むところだ。
- ・学生が興味を持つことが第一であり、もう少し高いレベルを求めたい。
- ・レベルが高すぎるという評価だろうと思います。授業の工夫しただけでは難しい内容であっても理解してもらえないのではないかと考えています。つまりは工夫が足りないということでしょう。
- ・学生に少し背伸びをしてほしい、そう期待しています。人生は安易なものではないことを学生生活でも学んでほしいと思います。

●質問に対する教員の対応

- ・常に自由に質問するように奨励し続けるようにしました。また、私個人のメールアドレスも全員に公開し、メールでも質問を受け、納得するまで、ていねいに回答してきました。学生にとって、質問しやすい環境を作ったことが評価につながったのだと思います。
- ・机間を巡って質問を受け、間違いをチェックし、制作の相談も受けるよう心掛けている。学生の意欲が湧く様に。
- ・質問はあまりありませんでした。テスト近くになって、何人かの学生が、(欠席した分をみっちり) 聞きに訪れた。
- ・質問に対して実例を示して説明をした事が良かったのではと思われます。

●シラバスの書き方

- ・シラバスに記載した内容には必ずしも沿って進めなかった点があったのでこのような(よくない) 評価になったと思います。ただ学生の顔を見ながらの臨機応変の変更だったと思うのでシラバスの書き方を工夫しなければならないと反省しました。
- ・学生の反応を考慮して講義を進めたので多少、計画を変更した点はやむを得なかったのではと思われます。
- ・講義概要の記述に工夫をしたい。実際は学生数、レベル等において計画通りには進まない。
- ・授業前にシラバスを配付し、授業の前後に本日の授業内容と次回の授業内容について説明することで、この項目の評価が高かったと考える。

●板書と資料、視聴覚教材

- ・板書の工夫をすべき。視聴覚教材を取り入れたい。
- ・ビデオや板書を必要とする内容や進行がさほど多くないことによると考えます。外に出て調査する授業が多いためです。
- ・ビデオなど視聴覚教材は使用しないが、板書は丁寧に書き、配付資料は十分(テキスト無しなので) と思っていたので、この結果(悪い評価) は意外であった。
- ・今回の授業では昨年度に比べ大幅に板書、CD、ビデオを入れ、具体的な理解を深めようとした。まだ、不満足な点があるが(私には) 学生に少しでも効果があったのは嬉しい。

- ・コピー資料をもっと整理し、内容を伝える方法をOHPや場合によってはパワーポイントを入れて授業を行えばもう少し理解度も高まるかと思う。
- ・授業内容を理解しやすくするためにプリントを多くし、板書をその分減らし、話し方に間をとり、考えながら授業を聞けるような工夫が必要だと考えています。

●授業内容の量

- ・テキストの基礎部分を4週ほどやってから、残りを易から難へと問題を片付けたのがよかったのではないか。
- ・内容をさらに減らす— 必要不可欠と思われるポイントを厳選する —こと。そして学生たちが興味を持つであろう材料を用いる必要があると改めて考えた。
- ・理解してもらうことが必要であり、授業内容は減らして、予習・復習に廻す量を増やすことが必要なのかも知れない。
- ・内容を減らすことは不可能である。もし改善するとすれば講義を2つに分ける必要がある。
- ・教えるべき授業内容が多く、半期で消化することに困難を感じる。

●新しい知識や技術を伝えられているか

- ・高校では学べない実社会に即した講義内容を心がけているので、(よい評価は)当然の反応。
- ・授業のテーマがビジネスに関わるものなので、それまで知らなかった世界がわかったという評価だと思います。当然の評価かもしれません。
- ・ジェンダーの新しい知識、考え方を、今後しっかり生かして人生を重ねて欲しい。彼女たちの意識は保守的な傾向をもっている。
- ・私としては、中学・高校で習ってきたはずの知識の復習のつもりでしたが、学生にとっては新しいアプローチと感じたようです。加えてTOEICを受けたことがない学生がほとんどでしたので、攻略方法、自習方法などのサジェスションを役立つ情報と受け取ったようです。
- ・情けない設備環境の中で、学生は良く意識してくれたことと思う。
- ・何よりも制作の喜び、完成の喜びを味わい、作品として知識・技術が目前に出来上がることにより、この項目は学生にとって、より強く感じられることとなる。
- ・私自身、講義内容について、より新しい充実した内容を目指している(どなたもそうであるように)が、学生もそれを素直に受け止めてくれているように思う。

●授業の改善

- ・予習もしない、復習もしない、事前配付の資料も読んでこない学生が多い。こうした学生も授業に引き込むような授業の工夫は必要と思う。
- ・単位は欲しいが、教科書は買いたくない。宿題をしない学生の数が多かったので、教授法を工夫しなければならない。
- ・予習や復習をしてもらう工夫をしていきたいと思います。
- ・ゲストスピーカーを呼んだり、ワークショップスタイルを取り込んだり、座学中心から遊びの要素を組み込んだ課外授業など参加型授業の展開の必要性を感じる。
- ・全体を理解させることよりも、焦点を絞った方が現実社会では役に立つと思う。学生は

実技の方が興味を持つ。

●今後の学生評価について

(肯定する意見)

- ・やはり学生の生の声が反映されているので、反省すべきことが分かり有意義であると思う。今後も続けていく必要がある。
- ・よく学生の反応が出ていると思う。私の方で感じていた困難さとも一致した。
- ・思った以上に学生が真面目にこのアンケートに取り組んでくれて良かったと感じました。

(学生評価への疑問)

- ・学ぶ姿勢を持たない者が評価するには疑問。逆に真面目に取り組んでいる学生が評価することには大いに賛成である。
- ・授業態度の良い学生ほど評価を高くする傾向、授業態度の悪い学生ほど評価を低くする傾向があるが、授業をろくに聞いていない学生に授業を評価する資格があるのかどうか。他人を評価するという行為をするには、する側にも相応のキャパシティが必要だが、残念ながらそのキャパシティのない学生たちが多と思います。
- ・欠席数の多い学生に注意したところ、課題を出してくれればそれをするので単位を出すように泣きつかれた。このような人たちにアンケートをしてもらう必要があるのか疑問。
- ・教科書も購入せず欠席が目立つ学生が、授業の項目の全てに3を付けた。欠席の多い者に対してアンケートを実施することに疑問を感じる。
- ・学生は概してそれなりに評価していると思うが、同一科目で2クラスを担当しているのに、差が出てはおかしい項目(例えば講義概要に沿った進度)に差が出たりした結果を見ると、よく考えないで回答している学生も多いように感じた。
- ・授業の特性を無視した調査内容と思われる。授業毎の「小調査・ミニツツペーパー」の方が有効と思う。
- ・アンケート記入の時間が短すぎるのか、学生も義務感だけで書いているせいか、全項目縦一列というのが見られます。(記入しなくてもよい項目まで)
- ・半期の授業なので、アンケート記入に時間をかけたくない。

(調査方法の改善)

- ・せっかくアンケートを取るのだから、質問の仕方を整理し、適切な問いにすることを望みたい。
- ・Ⅲの12番(レベルは適切か)と13番(量は適切か)の質問は、適切か適切ではないかということしかわかりません。「どう適切ではないのか」が知りたいので、12番の場合「レベルが高すぎるのか、低すぎるのか」、13番の場合「量は多すぎるのか、少なすぎるのか」がわかるような質問形式に変えていただけたら、と思います。
- ・Ⅰ項(学生自身の評価)とⅡ、Ⅲ項との関連がわかるような集計結果が知りたいと思います。Ⅰ項で、授業に自ら積極的に取り組んだかどうかで、Ⅱ、Ⅲ項での評価も違ってくるのではないかと思われるので。
- ・教員アンケートについて、効率性を増すために、質問は学生アンケート用紙のナンバーを使ってください。たとえば、1-①の1. 講義概要などの…は、Ⅱ-5 講義概要などの…としていただきたいと思います。

- ・質問事項で「あなたはこの授業の予習か復習をしましたか」は語学以外の授業では不要項目と考えます。全体的にアンケート内容に基づいたフィードバックのしくみをつくっていかなければ、この資料を有意義なものにすることはできないと考えます。
- ・「学生は授業に何を求めているのか」、「何のために（その）授業を受けたのか」について聞き、結果がどうだったのか、個々の授業の内容にふみ込んだ評価がほしい。
- ・板書、ビデオ、配付資料以外の授業形態に目を向け正しい評価ができるよう更なる改善を願います。〈例〉論文、調査、面談、ディベート、ディスカッション翻訳作業（グループワーク）、実験、実習、発表（プレゼンテーション）、コンテンツ制作。
- ・よく考えずに書いている様子を見ると、全授業でやるよりも一人の教員一つとか、少しピックアップして数を減らしマンネリ化した印象を持たせないやり方もあるのではないのでしょうか。
- ・学生は記名をした方が良い。「授業への感想」のところにとってもいい意見を書いた人、後期は検定試験の勉強をしたいという意見を書いた人もいたが、学生が分かったらより指導しやすい。
- ・学生も評価する場合には記名とし、記名者は表さないようにしても良いかも知れない。これは責任を持って記入することを意味する。
- ・アセスメントすることを考えながら両者（学生・教員）が授業を見直す時代に入っていることをよく受け止めたいと思う。（よりよい授業をするための意見を受け入れたい。）
- ・他校で経験があるが、アンケート間近の授業の印象や内容に影響をうけやすい。当初から通しての評価ができる工夫が必要。
- ・学生には選択の余地のない授業はそれだけ教員の工夫が必要でしょう。そこで選択と必修により科目を分けて集計結果（平均）が出る方が良いかもしれません。
- ・3年目になったので各年度でどう変化しているかの分析が欲しい。